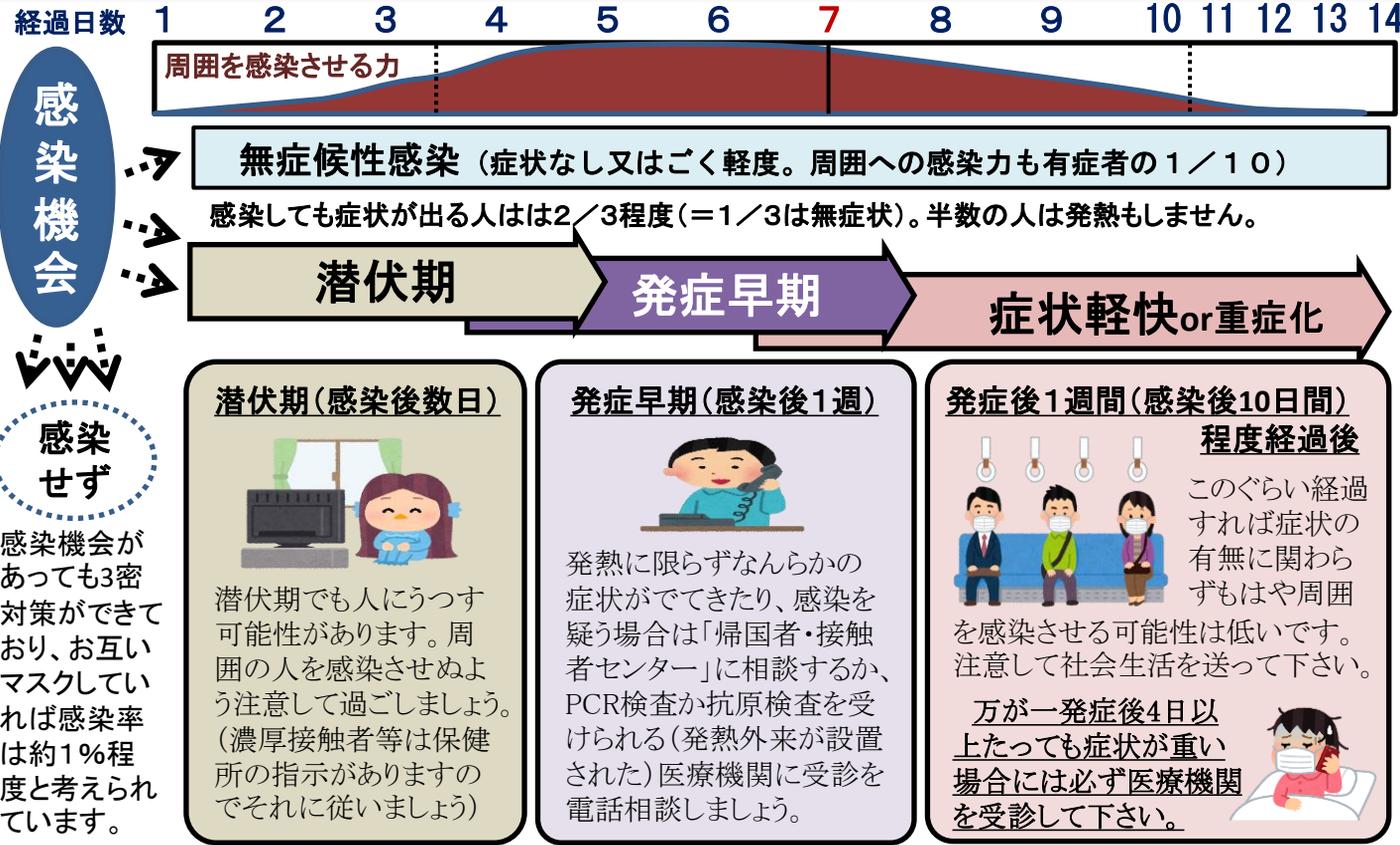


新型コロナ感染症の流行は当面収まることなく続くと思われます。次第に身近になってくることは避けられないことですが、しっかり管理していれば重症化率は1%程度で死亡率も0.5%程度であることがわかってきました。3密対策等をしっかり継続し、爆発的な感染拡大を防ぐ、重症化しやすい高齢者等に感染させない等注意しつつ過剰に恐れず冷静に対応しましょう。

## 1. 感染を疑う時は経過時期に応じて周囲への感染拡大防止に注意しつつ、適切に受診相談を



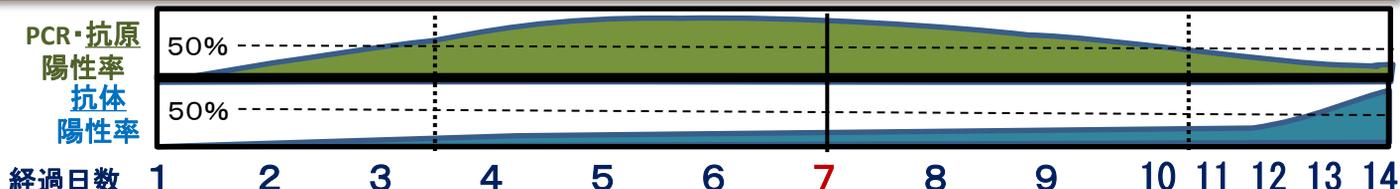
### 感染を疑い周囲に感染を拡大させる恐れのある期間(感染機会から2週間程度)の行動の注意点

- ① 常時マスク(不織布マスク(医療用)に限る)を着用すること。
- ② 極力周囲と距離をとること(最低でも1m)
- ③ 会議等3密状態となる場への参加はできるだけ控えること
- ④ やむを得ず参加する場合は、極力距離をとり(最低2m)、できるだけ短時間に済ますこと。
- ⑤ 会食・カラオケ等の参加は厳禁。
- ⑥ 食事等でマスクを外す場合には、周囲と2m以上離れること。

### ～感染を疑う時の療養方法のまとめ～

- ① 感染機会から10日間程度の自宅待機を推奨
- ② なんらかの自覚症状がであれば、速やかに「帰国者接触者相談センター」等に相談し、発熱外来受診の可否を相談
- ③ 感染機会から1週間たっても症状がでない場合は、療養打ち切りが検討できる
- ④ 出社可能と判断して1週間は念のため周囲に感染させないための十分な配慮を行う必要がある。
- ⑤ 感染機会から最長でも2週間以降は出社可能でありかつ2週間以降の検査は推奨しない。
- ⑥ 療養期間中に感染機会を作らないこと。

## 2. 各検査の意義をよく知り、安易に考えず適切な時期に検査受診の相談を。



PCR検査は「現在の感染」を評価できますが、潜伏期では50%程度しか陽性にならず感染直後の検査は不適切です。ピーク時期でも90%程度ですので、PCR陰性であることが非感染である証明にはなりません。

「抗原」検査はPCRより検出力が10%程劣るようですが、基本的にはPCRと同様に考えてよいです。一方、「抗体」検査(「抗原」検査とは全く別物!)は感染から2週間はほぼ検出できず周囲に感染させなくなつてから発見されても一般には無意味です。また「擬陽性(コロナ感染してないのに陽性)」率も10%程あり検査の信頼性も低いです。検査の要否について迷うときは、安易に判断せず、産業医や保健師、保健所等に御相談下さい。